

2022 年度秋セメスター 授業評価結果

1. 実施率

表1 授業評価実施率

	対象科目数	実施科目数	実施率 (21 秋セメ実施率)
共通科目	50	50	100% (100%)
看護学部	45	45	100% (100%)
社会福祉学部	88	88	100% (100%)
リハビリテーション学部	77	77	100% (100%)
計	260	260	100% (100%)

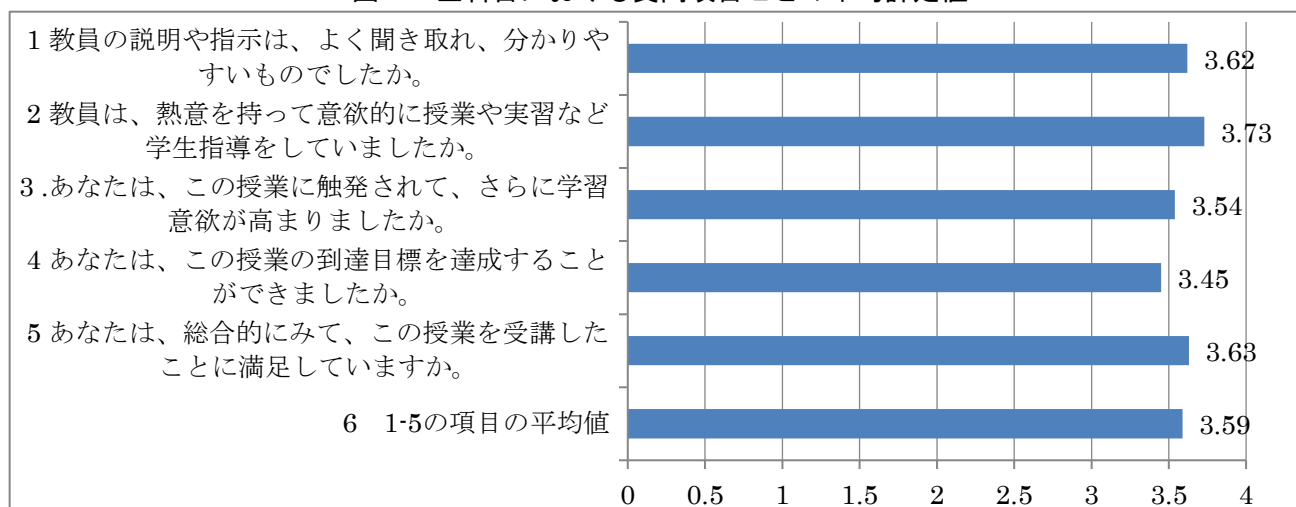
実施結果について

2020 年春セメから COVID-19 の感染拡大のため、教育環境は大きな影響を受けました。遠隔授業や対面と遠隔を組み合わせた授業形態など、学生・教員共に都度状況を判断しつつ、柔軟に対応することが求められましたが、感染対策を講じながら次第に従来の対面講義が可能となってきています。2022 年度秋セメも、予定通り全科目で授業評価が実施され、実施率 100%を維持できています。しかしながら、回答率の全体的な低下傾向と、科目による回答率の差が継続課題となっており、2022 年度は抜本的な改善に向けて検討を重ね、2023 年度より新方式で授業評価を実施することとなりました。引き続き授業改善に取り組んでゆきます。

2. 授業評価結果

評価票の評価について「そう思う」(4点)～「そう思わない」(1点)と得点を与え、質問項目ごとに平均評定値を算出した(図1～図5)

図1 全科目における質問項目ごとの平均評定値

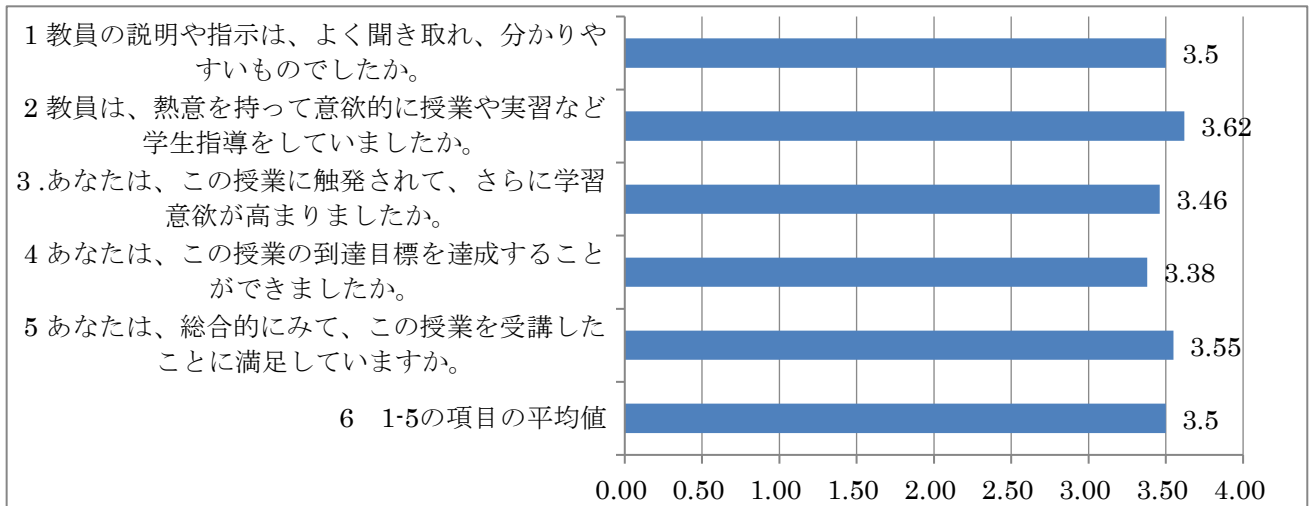


秋セメ授業評価平均値比較

問	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
1	3.57	3.65	3.61	3.62
2	3.64	3.76	3.71	3.73
3	3.51	3.46	3.54	3.54
4	3.44	3.39	3.42	3.45
5	3.56	3.59	3.62	3.63

問1・2および、問4・5については軒並み上昇、問3は低下することなく維持されています。2020年春セメからのCOVID-19の感染拡大の影響下において、各学部の授業運営の試行錯誤に、教員、学生共に努力し、適応しながら教育活動が維持されてきていることの表れであると思われます。各教室のAV機器や操作方法の簡易化と統一等、学習環境のインフラの改善も順次行われており、それらと並行して2022年度は、授業改善に資する学生からの意見収集にかかる双方の負担を軽減しつつ、学生FDスタッフの意見も取り入れた授業評価項目の見直しおよび、オムニバス講義の評価への対応など、運用方法に関する検討を重ねました。さらなる授業改善に向けて、2023年度春セメより新方式による授業評価を実施いたします。

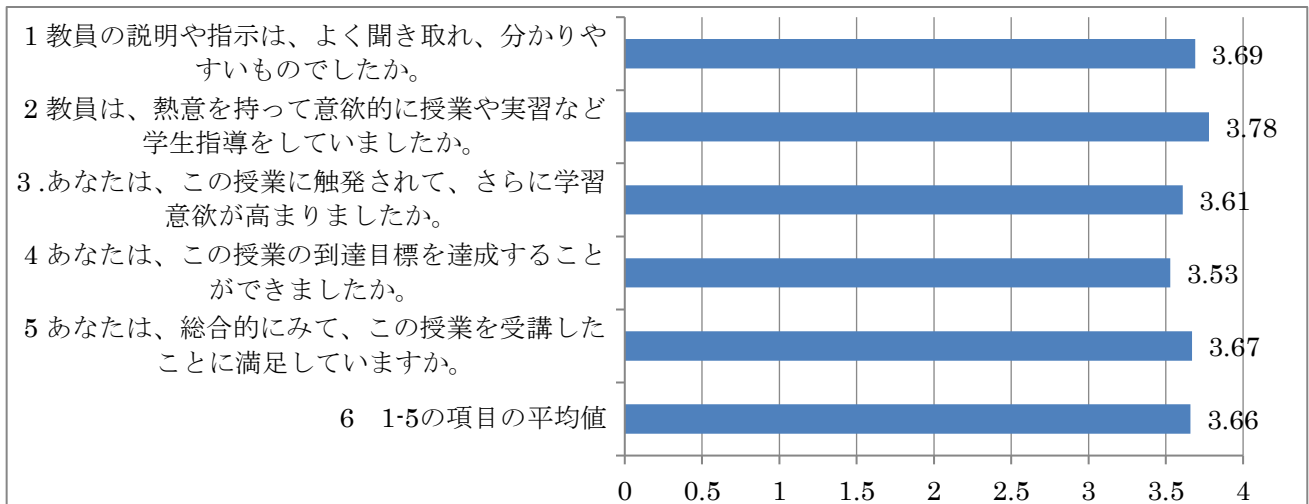
図2 看護学部における質問項目ごとの平均評定値



看護学部 FD 委員会のコメント

昨年度秋 semester と比較し、ほぼ横ばい（2 項目微低下、3 項目微上昇・5 項目平均では変化無し）で、概ね良好な評価が得られています。看護学部は、学部全体での講義の場合、160 名あまりが同時に講義を聞くこととなります。さらにコロナ禍の影響が残り、いくつかの科目においては遠隔通信システムを用いた 2 教室同時授業が継続しています。このような中での良好な授業評価は、教育内容・方法を工夫した教員と、積極的姿勢で学びに取り組んだ学生、両者の努力によるものと考えます。授業評価の回答率が下がっており、評価疲れが心配されますが、皆さんから寄せられた大切な意見について、僅かな評価得点変化を吟味するにとどまらず、学生の皆さんの自由記述の意見一つ一つに真摯に向き合い、授業改善に取り組んでいきたいと考えます。

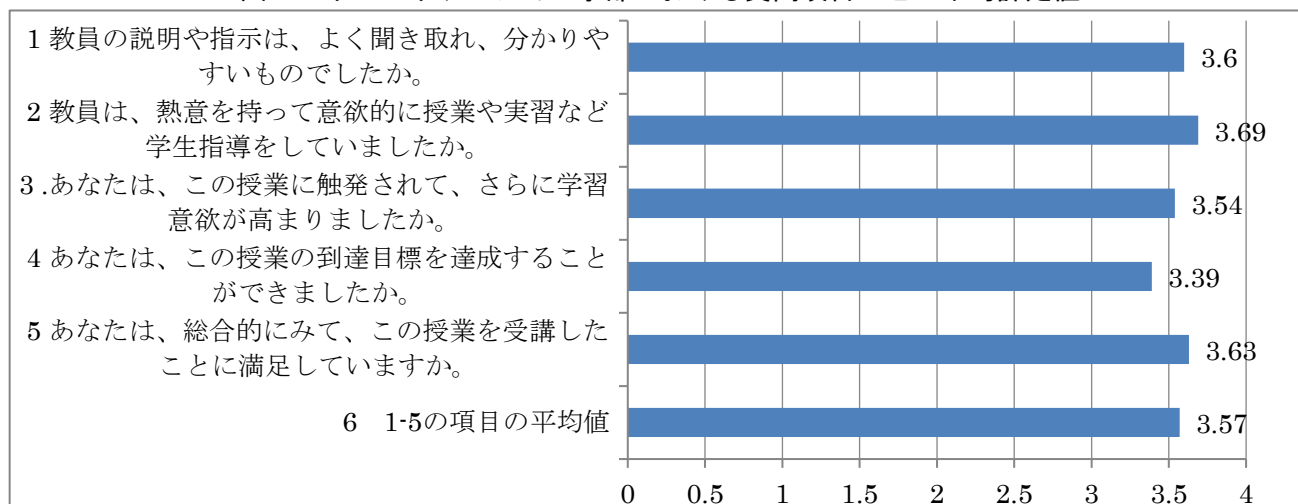
図3 社会福祉学部における質問項目ごとの平均評定



社会福祉学部 FD 委員会のコメント

2021 年度秋 semester とほぼ同等の高い評価が得られていました。その中であって、2 の教員の熱意、また 4 の到達目標達成度の 2 点については、評価点が 0.4 点向上していました。コロナ禍ではあっても工夫しながら学生同士の協働的な学習を展開したり、事前事後に自ら課題に向けて学修を深めたりなどするアクティブラーニングの展開を一層進めたことが評価されているのではないかと推察しています。今後も同じように一層の授業改善に励み、ICT を活用した授業などを視野に学部の FD 研修などで知見を高めていくようにします。4 の到達目標に関する項目は、学生 FD スタッフの意見を反映し、授業内で到達目標を確認したり共有したりしたことが功を奏しているのかも知れません。今後もこの点については意識をしていくようにします。

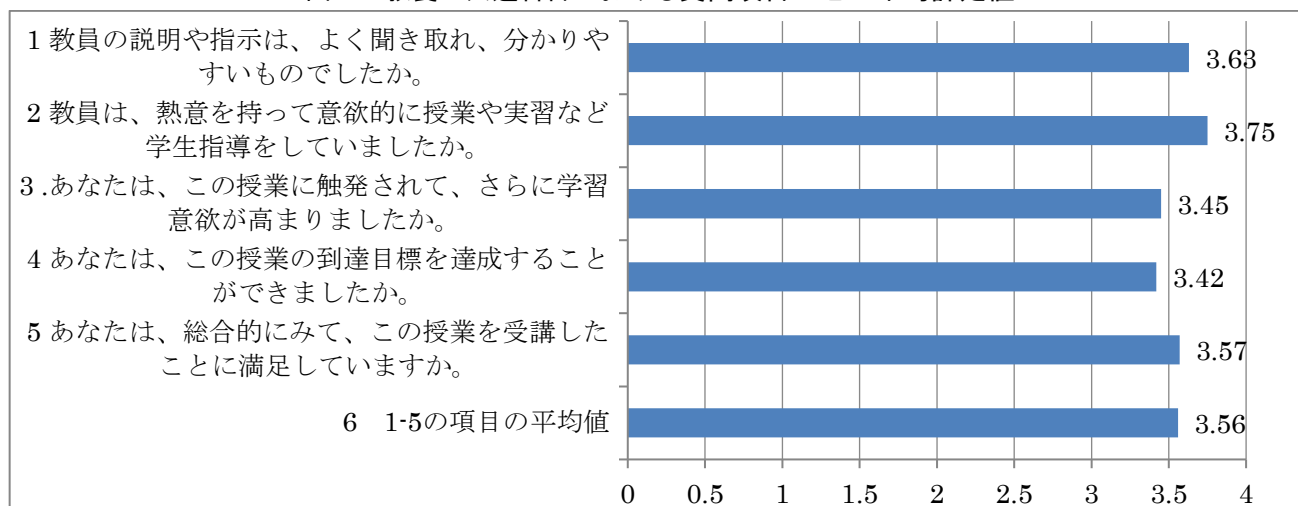
図4 リハビリテーション学部における質問項目ごとの平均評定値



リハビリテーション学部 FD 委員会のコメント

全体的な傾向としては、微増しています。授業内容や教員の指導が学生のモチベーションとなっていることが伺える結果であると考えます。一方で、半数近くの科目において回答率が50%を下回っていました。演習科目においてその傾向が顕著であることから、学生全体への授業評価のアナウンスが難しい状況があると考えられます。2023年度より新方式での授業評価の実施となるため、学生・教員の負担軽減が回答率の上昇につながり、より正確な授業評価となるよう取り組んでまいります。

図5 教養・共通科目における質問項目ごとの平均評定値



教務部長のコメント

2021年度秋セメの授業評価に比べ、すべての質問において、点数が若干ではありますが、下がっていました。概ね2021年度と同じレベルの授業の質は担保できていると感じています。しかしながら、質問4については、3.5点未満となっており、今後の課題であると受け止めました。次年度に向けて、授業設計やシラバス作成がわかりやすくなるように改善を進めていきます。